

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「人として幸せに安心して生きる日々を大切にします」を理念に掲げ職員全員が理解し、実践、支援している。	○左記記述のように、簡潔でわかりやすい理念が玄関に掲示され、毎月1回勉強会において、理念や地域密着型の意義、役割について、管理者と職員が周知共有し、実践につなげることに努めていました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の方々から野菜等採れたものをいただくいたり、日々の散歩で挨拶や世間話をしてもらいながら利用者との交流を図っている。地域の一員として組の協力金等納入している。	○地域の一員として、地元自治会の組費も納め、地域の行事、イベントにも積極的に職員・利用者が出席し、また、事業所の行事へも近隣地域住民に来所していただき、相互交流が定着していることが伺えました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を活かし、研修内容報告をしている。外出をすることで地域の人々に認知症を理解していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	今年度はコロナ禍のため、運営推進会議の開催ができない月がありましたが、状況を議事録として地域や家族へ報告している。	○コロナ禍においても、3回の運営推進会議を定期的開催し、委員の皆さんからはコロナ対策や水害時の避難対策等、具体的な意見・提案が出され、改善に反映されていることを会議録で確認できました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	必要に応じて連絡相談を行っている。地域包括支援センターには常に連絡をとり事業所の実情を伝え理解いただく努力をしている。運営推進会議に毎回出席されている。	○町の担当者とは、コロナ禍で対面する機会は少なくなっているが、電話連絡を頻繁に行い、また、運営推進会議には地域包括支援センターから毎回出席していただき、連携に努めていました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止マニュアルにより職員は理解し、意識統一を心掛けている。各居室とトイレは施錠しておらず、夜間のみ玄関を施錠している。	○身体拘束防止マニュアルにもとづいて、拘束をしないケアが実践され、玄関等の施錠も夜間帯のみで、利用者も自由にのびのびと活動できるようになっていました。利用者の身体拘束の事例はないとの管理者のコメントでした。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修で学ぶ機会を持ち虐待について理解し意識を高め防止に努めている。虐待にあたる行為がないか確認をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修会等自主参加しているが、全職員の学習が十分にできていない。必要性のある場合は活用できるように支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に沿って説明し時間をかけて理解していただいている。質問等は来所時や電話にて行っている。また改定時は書面や家族会等で説明し理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の意見・要望等は日常会話の中から汲み取る様にしている。家族からは家族会や来所時他いつでも受けている。要望等は必ず反映できるものではないが出来る限り努力している。	○利用者の意見や要望については、日常的な関わりの中で職員が意識して把握に努め、面談が必要な利用者に対しては、随時個別に話し合う機会を設け、また、家族には家族会や電話、便り等で意見や要望を把握するように努めていました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月末の職員会議では意見や提案を聞く機会を設け、代表者と管理者が話し合いを反映できるように努めている。	○管理者は、毎日3回の職員ミーティングで職員の意見や要望を把握し、また、毎月の職員会には代表役員も出席し、職員の要望や提案を聞き話し合う仕組みがありました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	自己評価をもとに職員の努力、実績、勤務状況を把握し人員確保も充足している。職場環境、条件の整備に努めている。処遇改善手当は勤務年数別に平等に手当てを設定している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修を受ける機会を確保している。スキルアップのために自主的に受けている。働きながらのトレーニングは難しいが努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	北信グループホーム交流会はあるが交代勤務のためなかなか参加できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人の意見を傾聴し、困っていること不安なこと要望等を把握し、関わりを大切にすることで信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	初期の面談、アセスメント作成の段階で家族の思いを傾聴している。毎月のお便りで利用者の様子をお知らせしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	可能な限り家族の要望に沿えるように努めている。通院時は付き添い、薬取りの代行を必要に応じて行っている。日用品の購入サービスを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人のできることを協力していただき、生活を共にしていく関係を築き、過ごせる時間を大切にしている。また教えていただくこともあり互いに協力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	常に家族と相談し本人にとって一番良い支援の在り方を共に考えている。また可能な限り通院や外泊をしていただけるよう努めている。感染防止のため面会制限をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	いつでも面会に来ていただけるよう支援し面会できる場所を確保しゆっくりしていただいている。現在はコロナウイルス感染拡大防止のため面会制限をしている。	○コロナ禍でも事業所としては、親しい人等については、面談時間は制限しながらも面会室を設けて受け入れ体制を整備したとのことですが、訪ねてくる方は少なくなったとのことでした。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者間の会話、行動には常に気を配り、楽しく過ごせるように配慮している。また自由に関わりあえるよう支援しているため、利用者同士の見守りや言葉掛けが見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	家族が地域代表として運営推進委員を務めている。入院された方などには、サービス後も状況を家族にお聞きしたり、面会に行き相談を受け必要に応じサービスが受けられるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話の中から希望、意向等を読み取り、話を聞くなどして希望に沿えるように努めている。思いが伝えられない場合は表情や状況を踏まえ検討している。	○日常の利用者との関わりの中で、個々の利用者の会話や表情や行動の変化に職員が気づいたことを記録したり、情報を共有できる仕組みがあり、利用者個々の思いや意向を適切に把握しようとする姿勢が伺えました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	日々の会話の中から生活歴や生活環境、馴染みの暮らし方を把握している。これまでの利用サービス施設・家族・ケアマネ等からの情報により把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の記録や気付き、毎日のバイタルチェック、排泄記録により把握し、無理のないよう個々のペースで支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人の希望や要望を確認し、本人の意向が確認できない場合、家族・職員と話し合い、意見やアイデアを反映している。	○所定のアセスメントシートや担当職員、看護師、家族等の情報に基づいて、介護支援専門員がケア計画を作成し、また、モニタリングも定期的に適切に実施されていることを介護計画書等の資料で確認できました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の日誌、介護記録、連絡帳や口頭にて職員全員が情報を共有している。職員会議で話し合い、良い支援ができるよう努力している。家族には可能な限り介護記録を見ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人、家族の状況を把握し個々に必要な支援サービスを提供できるよう職員間で話し合いできる限りのサービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	民生委員、地域包括支援センター、地域医療機関の支援、地域ボランティアの支援をいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	個別にかかりつけ医があり、受診は家族が基本的に行っているが日々の様子や体調変化等情報を伝え、記録を持参してもらっている。状況に応じて往診をしていただき医療を受けられるように支援している。	○事業所の協力医療機関以外にも、4か所の医療機関がかかりつけ医として利用されていて、看護師が適切な連携調整支援をしていることを伺いました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員が常勤しており体調管理を行っている。日々の情報や気づきを共有し、個々の利用者が適切な看護が受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院のケースワーカー、看護師等と情報交換や相談等の連絡を密に行い、退院後の支援についても随時情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	事前に重度化とターミナルケアの指針の説明をし、本人と家族の意向に沿うよう主治医と連携を図り、納得のいく終末期を過ごせるように支援している。	○前回の外部評価受審時には、配置されなかった看護職が、常勤配置され、重度化や終末期ケア体制がより拡充整備され、利用者・家族・職員も安心できる仕組みになっていました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	個々に講習会へ参加をしている。マニュアルはあるが定期的な訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回日中及び夜間を想定した避難訓練を実施している。年1回消防署員による指導を受けている。水害時の避難経路、連絡体制を確認し、日中及び夜間の避難訓練を実施している。	○防災対策については、特に水害対策を強化し、避難場所の地域包括支援センターへの避難訓練や運営推進会議で提案のあった出入口の整備もできて、町行政や地域ぐるみで協力応援していることを伺いました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの人格を尊重し温かく安心できる対応を心がけている。またその人にあった言葉かけや時には方言を交えて会話をしている。	○利用者個々の権利擁護については、組織の代表役員や管理者、全職員が定期的に研修会に出席して、プライバシー保護や利用者個々の尊厳等について、事例研究を行い、周知共有の徹底に努めていることを記録等で確認できました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	個別に話を聞いたり思いを話してもらっている。また表情や態度を観察し言葉かけに工夫している。個々のニーズに応じた支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	散歩やレクリエーション等本人のペースを大切にして希望に沿って過ごしていただいている。その日の体調や気分により日々の流れの中でも本人のペースで過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	好みの衣類を選んで着ていただき、またいつでも着替えられるように分かりやすい位置に置いている。髪の毛のカットは本人の希望で行っている。清潔・衛生面には気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	希望を聞き献立に取り入れている。旬の食材を使用し下ごしらえをしていただいている。誕生会や行事の時はいつもより豪華にしている。準備や片付け等出来ることをお願いしている。	○食事の献立は事前に当番職員がメニューを提示して利用者の希望を聞き、全職員で献立表を作成し実施している。野菜の下ごしらえやテーブル拭き等も利用者の希望や特性に応じて、役割分担がありました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	バランスが良く食べやすい食事を提供し、食事量や水分摂取量を日々チェックしている。また病状や体重の変化をみながら摂取量を調整し、形状にも工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後個々に声掛けをし、口腔ケアをしていただいている。夜間は義歯を外していただき定期的に洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄パターンは日々の記録で把握し、トイレ誘導を行っている。個々に合わせてポータブルトイレを使用し体調不良、立位困難な方にはオムツに変更するなどその都度対応している。	○特に排せつの自立支援については、事業所の重点目標として、日々の一人ひとりの排せつ習慣を記録し、体調変化時にも適切に対応できる仕組みの中で、全員の利用者がトイレ使用ができる支援を実践していました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	野菜中心で消化の良い食事の工夫や水分摂取していただけるよう声掛けをしている。また散歩や体操、レクリエーション等で身体を動かせるよう働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	週2～3回午後の時間帯に行っている。利用者の意見を尊重し体調に合わせて入浴していただいている。立位困難な方にはリフト浴を行い安全に気持ち良く入浴していただいている。	○入浴は、毎週2～3回実施し、一人の利用者に2人の職員が介護支援を行い、安全に配慮した入浴支援体制になっていました。重度化によるリフト浴利用者が半数ほどになり時間帯によっては、他の利用者への関わりが手薄状態になるとの職員コメントもありました。	○限られた職員数で適切なシフトを組むことには苦慮されていると思いますが、職員インタビューで左記のコメントもありましたので、特に利用者の関わりが手薄になる、入浴、調理時間帯の工夫配慮等をお願いします。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	睡眠は十分とっていただけるよう個室内やリネンの清潔環境に気を配っている。状況に応じて自由に休息を取られている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬については目的・用量・用法について理解し管理している。確実に服薬できるよう支援し症状の変化について注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	野菜作り・収穫を行っている。季節の行事、歌やテレビ、DVD鑑賞と生活に楽しみがもてるように支援を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日々の散歩、外気浴をしている。家族の協力もあり外食を定期的に行ける方がいる。また季節に応じてパラ見学・紅葉狩り・カラオケ・踊り鑑賞等に出かけている。	○コロナ禍で外出も制限せざるを得ないということですが、ホール内を散歩したり、図書館から紙芝居を借りてきたり、紙コップを活用して飾ったり等の室内活動を工夫しているとの職員のコメントがありました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々には所持されておらず家族より事業所で預かり必要な物や利用者が希望されれば購入代行を行っている。また家族と外出されるときに買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者の希望があれば電話をしている。手紙が届いた場合は直接お渡ししている。本人の希望に応じて代読をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間にテーブルを置き、鳥や植物、野菜・花の育つ様子を眺められるなど季節を感じていただいている。快適に過ごせる温度管理、適度な換気、清潔感を保つなど心地良く生活できる工夫をしている。自室やトイレが分かりやすく混乱が少ない。	○玄関ドアを開けた壁面いっぱい落ち着いた色合いのパッチワークキルトが飾られ、中に入ると大きな展望窓からの陽光で明るい共用空間があり、利用者の皆さんがくつろいだ様子で職員と談笑していて、穏やかな雰囲気印象的でした。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人の時や利用者同士ゆっくり過ごせるようテーブルの配置に工夫している。ソファや食卓席にて自由に過ごされるよう見守りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が置きたい物やラジオを置いて聴いたりしている。また思い出の写真を飾ったり位牌・遺影を持参されている。家具やベッドの配置を変更し外を眺めやすくしている。	○居室のドアは、一人ひとりの利用さんの希望も取り入れた色彩豊かなドアの色にすることで、利用者が自室を間違えない配慮があり、居室内も窓から外を眺められるようにベッド、家具等が配置され、居心地の良い空間が感じられました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個々に応じてできることはやっていただけのような支援している。安全に過ごしていただけるよう危険なものは置かない。個室を間違えないよう名札を貼ったりドアの色分けをし工夫している。		